



No. 18 2019. 10. 9

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミススク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

## 学校運営協議会からの雑談から

1学期の松が丘コミュニティ・スクール学校運営協議会で松が丘の樹木が話題にのぼりました。その中で「毎日校区を散歩していて、どこに食べられる実がなる木があるか詳しい人がある」という話になりました。その時点では、「子どもたちと保護者の方で校区樹木ツアーみたいなものができたら面白いですね」といった話で終わりましたが、2学期になって、学校に地域の方からとっても面白い資料が届きました。それは「松が丘校区に咲く珍しい花や実のなる木などの紹介」という樹木の場所を記入した校区地図とその樹木の名前と特徴をまとめた資料です。

この資料をどう子どもたちに活かした形で学習活動に仕上げていくかが学校の出番です。しかし、学校だけでやるのではなく、地域の方や保護者と知恵を出し合って単元を創っていくのがこれからの学習活動を創っていく方法の一つだと考えます。これまでもゲストティーチャー等で地域の方や保護者の方に協力していただくことはよくありましたが、学校・保護者・地域がともにめざす子ども像に向かって協働して学習活動を創っていくことで子どもがリアルに社会につながる場ができていくのだと考えます。これからの教師に求められる力の一つとして、そうした協働する場をコーディネートできる力があると考えます。

学校運営協議会でふと交わされた雑談からこんな資料ができてくる、地域の方、保護者の方からアイデアをいただくと、学校だけではできない学習の広がり生まれてきます。そんなちょっとしたキッカケをつかんで行きたいですね。学校が、教師が地域に開いているからそうしたキッカケがつかめるのかもしれないですね。後は、この資料をキッカケにどう子どもたちを地域につないでいくかです。



「松が丘校区に咲く珍しい花や実のなる木などの紹介」

## トピックス

### 富山県南砺市全小中学校で「担任制」から「チーム指導」へ

南砺市は来年度から市内17の全小中学校で、従来の「1学級1担任」の体制を見直し、複数の教員がチームで学年全体を指導する仕組みを導入します。

これは、30日開かれた南砺市総合教育会議で市が示したものです。それによりますと小学校では、1クラスに教科担任と学級担任を配置したうえで教員の負担を軽くし児童の学びの差をなくすため教科によって2学年以上が同じ授業を受ける「複式学級」を取り入れます。

中学校では教員はクラスではなく学年に配属され、「教員チーム」が交代で朝のホームルームなどを担当します。この制度により部活動を担当する教員が2限目から出勤可能になるなど教員の「働き方改革」を進める効果も期待されています。

南砺市教委によりますと固定担任制の見直しや、教員の時差出勤の導入は全国的にも珍しく県内では初めてだということです。「チャレンジ型の市なので、その息吹を先生方とともにどこかがやっただからやるのではなくて新しいことにみんなでやっていくチームの機運をみんなで高めていくことが課題です」（教育長）  
チューリップテレビ：Yhooニュース参照

こうした仕組みが自分の学校で使えるかどうかを、また学校が抱える課題を解決する仕組みをにこれまでの前提にとらわれず校内で考えてみるのも今後の学校づくりを考える上でも大切ではと考えます。

## 3年環境体験&環境公開講座

### 朝霧川をとおして朝霧のまちづくり



朝霧コミュニティ・スクールで「3年環境体験&環境公開講座」が進行中です。観察会→学習会→朝霧川清掃という3回シリーズの「3年環境体験&環境公開講座」です。

これまでは、3年の環境体験という形で行われてきたものですが、コミュニティ・スクールとして考えてみると、子どもたち自身も自分たちのまちを考えるキッカケとなるだけでなく、保護者の方、地域の方にとっても自分たちの住んでいるまちを再発見するキッカケとなり、朝霧川の学習が人と人をつなぐ場としての意味を持つてくるのは、コミュニティ・スクールの力ではと考えます。

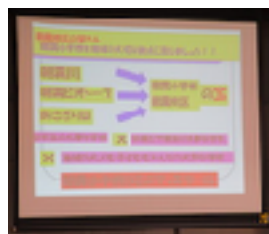
9月24日の朝霧川観察会では次のような生き物・植物が見つかったそうです。

- メダカ ドジョウ モクズガニ ミナミヌマエビ  
カワナ ギンヤンマのヤゴ シオカラトンボのヤゴ  
アジアイトトンボのヤゴ
- ミゾソバ ジュズダマ スイバ ギシギシ セリ  
クレソン

これらは、きれいな川、水質の良い川にしか生息しない生き物だそうです。

9月30日に開催された学習会では、朝霧川・あさぎりビオトープ・あさぎり山に住む生き物たちの話を中心こんな生き物が暮らせるほどいい川にするための苦労話も聞かせていただいたようです。11年間の地域の皆さんによる地道な取り組みのおかげで、活動の輪も広がり、ファミリーでの参加も増えてきているそうです。

子どもたちの環境学習として、また地域の清掃活動としてバラバラであったものがコミュニティ・スクールでまちづくりとして一つになっていく。こちら、朝霧川を入り口にして子どもたちをどう地域につないでいくかです。



小学生の大事な学校×卒業生や家族の大事な学校  
×地域の大人も子どももみんなの大事な学校  
朝霧コミュニティ・スクール

## 本の紹介

### 奇跡の学校

ーコミュニティ・スクールの可能性ー

小西哲也・中村正則編著



「学校は誰のものか？」と小西先生の問いかけから始まっています。「学校は

誰のものか？」は私がコミュニティ・スクールに取り組み始めた頃、自然に出てきた疑問でした。取り組む前は「学校は地域のもの」と何の疑問もなく答えていたと思います。でも取り組み始めてみると、地域の人にとって学校は遠い存在、壁があるのではと考えるようになりました。この本には学校が「地域の学校」として地域の中で育っていく子どもの姿、学校での学びが生き甲斐となっていく大人の姿が詰まっています。コミュニティ・スクールの取り組みをすすめるに当たって手にとっていただけたらと思います。

### 麴町中学校の型破り校長

#### 非常識な教え

工藤勇一



工藤勇一先生の子育て本ですが、発想を変え、視点を変えて考える上でとても役立つのではと思います。上でご紹介させていただいた「奇跡の学校」もこの本も学校が「社会に開く」とはを私たちに問うているように感じます。

明石市教育委員会ホームページにコミュニティ・スクールのページがアップされました！！  
コミスクだよりのバックナンバーやコミスクの研修資料がご覧になれます